

## インフォメーションディスプレイ Vol.25



最高経営責任者  
医学博士

田邊 卓爾 様

## 中之島クリニック 様

中之島クリニック様は、京都にある医療法人 坂崎診療所の分院として、2007年7月に開院されました。

「受診していただくすべての方に満足して帰っていただく。」を理念に、健康診断と画像検査専門のクリニックとして大阪府下でも10数台しか導入されていないPET-CTを始め、MRIやCTなど最新の医療設備を導入し、当院を訪れるゲスト(来院者様)はもとより、近隣の病院で受診されている患者様の検査も積極的に受け入れられています。



所在地：大阪府大阪市

大きなディスプレイ画面を使った検査結果の説明は  
ゲストに非常に満足いただいています。

PN-465  
1台導入  
(結果説明室)

中之島クリニック様では、開院するにあたって従来のやり方と違う病院のスタイルを模索され、各種検査機器で撮影した画像をフィルムに出力せず、すべてを電子データで管理できるシステムの導入を決定されました。撮影された画像データを使って、ゲストの方に検査結果を説明されるのですが、その説明を「インパクトのある」ものにするために、検診結果説明用の大型ディスプレイの導入を検討されました。

「とにかく大きく見せたい」と導入されたこの大きな液晶ディスプレイを使った説明は、健康に不安のあるゲストに対し、非常に分かりやすくプレゼンテーションできるとのことです。



開放的な結果説明室で、マンツーマンで診断結果を報告される。



従来の病院のイメージとは全く違う、ホテルのロビーのような待合室。

## 導入時の評価ポイント

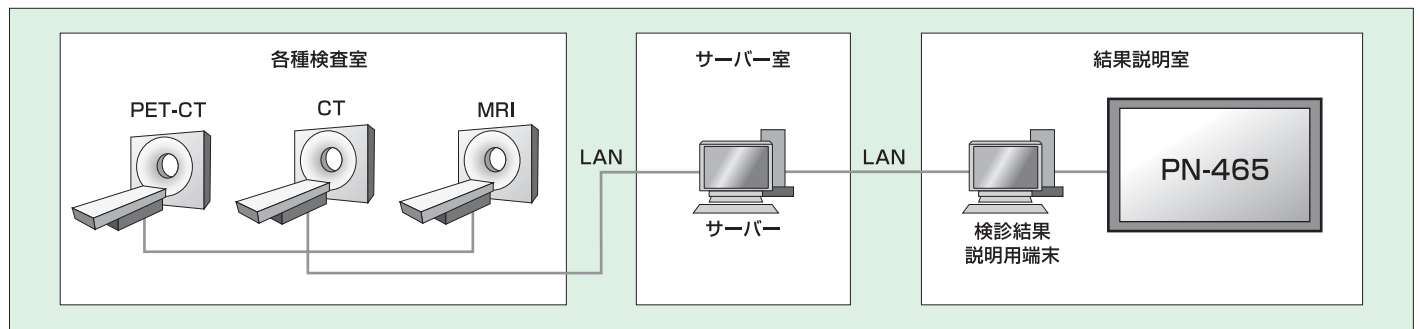
■ ゲストの方にきちんと説明できる  
■ 46型の大画面

■ 細部まで細かく見せられる  
■ フルスペックハイビジョン(1,920×1,080画素)の高解像度

■ 3D化されたスキャン画像も  
■ 色鮮やかで鮮明な表示力

■ 明るい結果説明室の中でも  
■ 写り込みが少ない見やすい画面

## ■ システム概略図



## 導入の経緯

「従来とは違う病院のスタイルを。」  
大きな液晶ディスプレイの導入も、その一環でした。

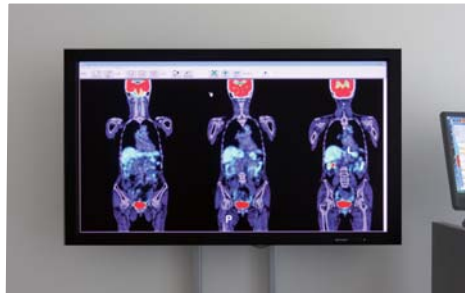
「今までにない病院を作りたかった。」  
開口一番、この病院の最高経営責任者であり医学博士である田邊卓爾氏はおっしゃいました。

そのお考えは病院の外観や内装、看護師や職員のユニフォームまですべての面で反映されています。

検診の内容もそのスタイルが反映され、開院当初から全くフィルムを使わないシステムを導入されています。

その中で、検診結果説明用として本院で使用されていた15インチの小さなディスプレイではなく、大きな画像で解りやすく

インパクトのある説明ができる大きなディスプレイの導入を決定されました。



PET-CT等で撮影された画像が、細かく鮮やかに表示。色分けされた立体画像も、美しく表示される。

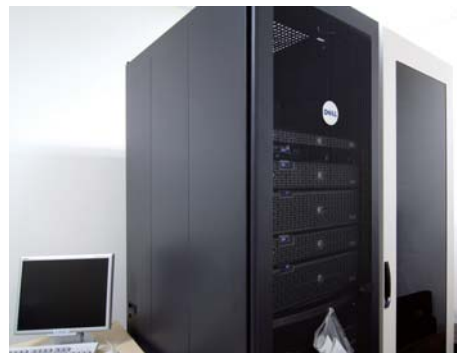
## 導入後の感想

大きなディスプレイを使った検診結果の説明は、かなり有効。  
ゲストの方の満足度も非常に高いです。

「大型ディスプレイでの説明は非常に有効ですよ。」と田邊氏。インフォメーションディスプレイはCTなどの画像も細部まで写し出せるので、ゲストの方にも非常に理解していただきやすく、それが満足度につながるようです。血液検査等のデータはエクセルなどで表示しますが、文字が大きく写し出せることもインフォメーションディスプレイのメリットだとおっしゃいます。

京都の本院で使っていた15インチのディスプレイで見た画像は、ほんやりしていたが、インフォメーションディスプレイでは細部までクッキリと写し出せ、「(シャープの液晶は)やっぱりきれい」とスタッフの方々にも満足いただいています。

撮影された画像データは、すべてサーバーで一括管理される。



## 今後の展開予定

近隣の医療機関や住人の方に信頼される病院に。  
そのためにもインフォメーションディスプレイは必要なものに。

「将来的には近隣の医療機関や住人の方に『あそこに行けばきっちりと見てもらえる』と言われるような病院になりたい

ですね。」と田邊氏は最後に話されました。そのためにも満足度の高いインフォメーションディスプレイは、積極的に活用して

いきたいとのことでした。

## ● お問い合わせは

シャープ株式会社

情報通信事業本部 ビジネスソリューション事業部  
電話：(03)3260-8217 / (0743)55-6373

2007年10月発行